

東京都防災会議地震部会（第3回）議事概要

1. 地震部会の概要

日 時：令和4年2月2日（水）10時00分から12時10分

会 場：オンライン開催（東京都庁第1本庁舎8階災害対策本部室）

出席者：平田部会長、中林部会長代理、加藤委員、規矩委員、
酒井委員、佐竹委員、久田委員、三宅委員
原田危機管理監、猪口総合防災部長、芝崎防災計画担当部長、
濱中防災計画課長、宮原計画調整担当課長ほか

2. 議事概要

被害想定項目に関する手法及び試算について、各委員から下記のとおり意見があった。

<地震動、液状化、急傾斜地崩壊、津波>

- 想定地震の発生確率について、都民の誤解を招かない示し方とすること。
- 津波浸水の評価について、堤防条件等の設定など、わかりやすい説明とすること。
- 液状化や急傾斜地崩壊危険度の配色方法の工夫で都民に分かりやすく伝わると思う。

<建物被害、人的被害・社会的影響>

- 被害想定では、対策による被害の軽減効果がわかりやすいように整理すること。
- 夏の昼間を想定シーンに加え、酷暑の中で避難や、停電に伴う空調停止など屋内滞留者への影響などについて定性評価を実施することです承する。
- 火災について、出火件数・焼失棟数等の分析を通じて不燃化の効果を整理するべきではないか。
- 帰宅困難者数の推計について、コロナ禍以前の状況を想定している旨を示す必要があると思う。
- 災害廃棄物について、廃棄物の種別に応じた算出は出来ないか。

<交通インフラ・ライフライン被害>

- 発災時には、定量評価できない機能障害等も発生しうるため、定性評価で補うべき。
- 道路や電力、通信の被害が、各項目の復旧活動に影響する部分についても示すこと。

<その他>

- 定量評価しきれない部分の機能障害や、対策による被害軽減効果について、定性評価の内容検討も含め、十分な検討を実施すべき。
- 次回開催は令和4年3月25日（金）とする。

以上